

TDB 景気動向調査(全国) — 2025 年 8 月調査 —

2025 年 9 月 3 日
株式会社帝国データバンク 情報統括部
https://www.tdb.co.jp
https://www.tdb.co.jp/report/economic/#trends

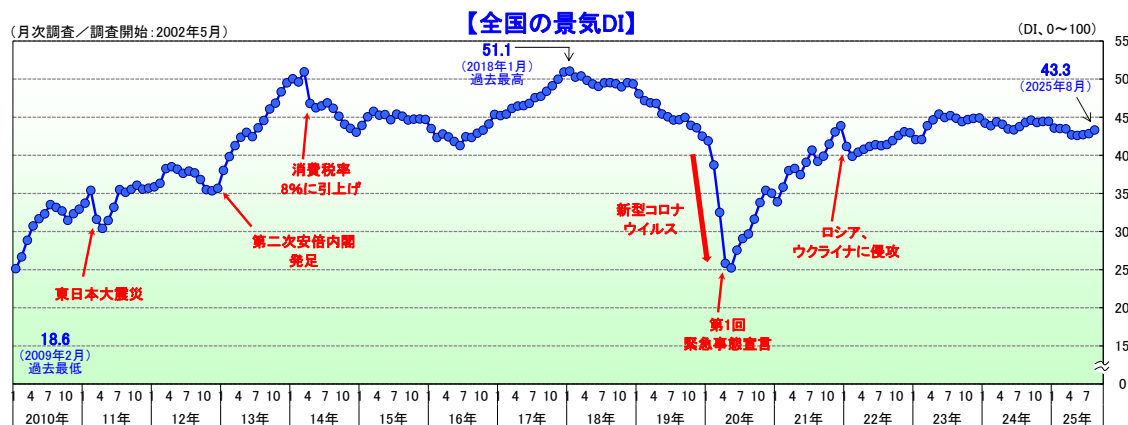
国内景気は 3 カ月連続で改善

～ 幅広い業種での猛暑特需や全国の建設需要がけん引 ～

(調査対象 2 万 6,162 社、有効回答 1 万 701 社、回答率 40.9%、調査開始 2002 年 5 月)

調査結果のポイント

- 2025 年 8 月の景気 DI は前月比 0.5 ポイント増の 43.3 となり、3 カ月連続で改善した。国内景気は、米国の関税政策に不確定要因が残るものの、猛暑による川上から川下までの特需や全国の建設需要がけん引し、上向き傾向が続いた。今後の国内景気は、実質賃金の行方を見極めつつ、当面は横ばい圏での推移が見込まれる。
- 『製造』『建設』『小売』など 9 業界で改善、『サービス』のみ悪化した。規模別では、「大企業」「中小企業」「小規模企業」が 2024 年 9 月以来 11 カ月ぶりにそろって改善した。「大企業」は『製造』や『小売』がけん引し、4 カ月連続で上向いた。地域別では 10 地域中 8 地域が改善、各地の建設需要などがプラス材料となった。
- [今月のトピックス] 飲食関連の景況感は、お盆休み期間の賑わいや季節需要などから川上から川下まで幅広い業種で改善した。



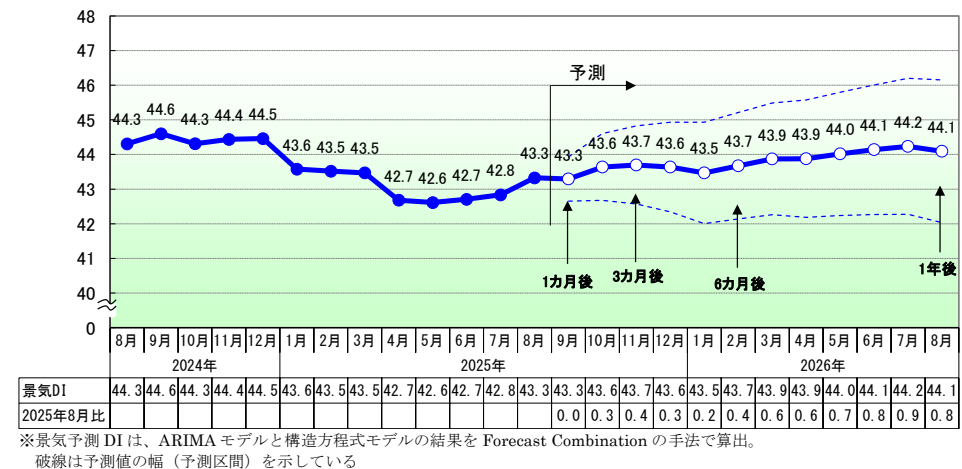
＜ 2025 年 8 月の動向：改善傾向 ＞

2025 年 8 月の景気 DI は前月比 0.5 ポイント増の 43.3 となり、3 カ月連続で改善した。国内景気は、米国の関税政策に不確定要因が残るものの、猛暑による川上から川下までの特需や全国の建設需要がけん引し、上向き傾向が続いた。

8 月は、記録的猛暑の影響で飲食関連や熱中症対策商材、エアコンなどに特需が生じ、幅広い業種に波及した。日経平均株価が過去最高値を更新するなど、金融市場は活況だった。公共工事の発注が続く建設需要も堅調に推移したほか、旅行関連は好材料。一方でトランプ関税をめぐる日米合意後の混乱は外需の逆風となったほか、屋外レジャーの低迷や価格転嫁の遅れも下押し要因だった。

＜ 今後の見通し：横ばい傾向 ＞

今後は、実質賃金と手取り収入の改善、そしてインフレ対策が個人消費に与える影響が焦点となる。AI 関連の設備投資と訪日客の増加は景気の下支え要因である。他方、米国の関税措置では自動車関連の引き下げ時期の確定が急がれ、貿易取引におけるルールの明確化が不可欠となる。人手不足と物価高は引き続き重しとなり、追加利上げの時期も注視が必要だ。国内景気は、実質賃金の行方を見極めつつ、当面は横ばい圏での推移が見込まれる。



業界別:10 業界中 9 業界が改善、お盆休みの賑わいなどが好材料に

・『製造』『建設』『小売』など 9 業界で改善、『サービス』のみ悪化した。お盆休み期間の賑わいなどから飲食関係は川上から川下まで幅広く改善した。また、季節需要や全国各地の建設需要も景気を押し上げた。加えて、運輸関係は貨物・旅客輸送ともに一定の需要を確保した。他方、人材確保が難しく技術者の不足や物価上昇の圧力に対して価格の転嫁が進まない点などは悪材料だった。

・『製造』(39.6) …前月比 0.7 ポイント増。3 カ月連続で改善。「飲食料品・飼料製造」(同 1.5 ポイント増) は、飲食店や食品スーパーなどで需要が増え 2 カ月連続で改善した。建設部材の需要などが押し上げ「鉄鋼・非鉄・鉱業」(同 1.2 ポイント増) は、低水準ながら 4 カ月連続で上向いた。また、「化学品製造」(同 0.9 ポイント増) も同じく 2 カ月連続で改善した。他方、「輸送用機械・器具製造」(同 1.6 ポイント減) は、自動車関税の引き下げ時期が決まらず各社の負担感が増すなか、一部メーカーの低迷なども重なり 3 カ月ぶりに悪化した。

・『小売』(39.4) …同 0.5 ポイント増。3 カ月連続で改善。「飲食料品小売」(同 0.4 ポイント増) は、お盆休みの賑わいなどから 4 カ月ぶりに上向いた。また、熱中症対策や日焼け止めなど季節需要が好調な「医薬品・日用雑貨品小売」(同 1.4 ポイント増) は 4 カ月連続で改善した。加えて、猛暑によりエアコン販売が好調といった声が複数寄せられた「家電・情報機器小売」(同 0.1 ポイント増) は、3 カ月連続で 40 台を維持した。

・『金融』(46.5) …同 0.3 ポイント増。2 カ月ぶりに改善。月後半に日経平均株価が最高値を更新するなか、「資金流入傾向が続いている。世界的な株高も好影響」(証券投資信託委託) などといった声もあり、良好な投資環境などが押し上げ要因となった。また、貸出金の利回り改善から利息収入の増加といった声も聞かれ、銀行などの景況感が改善した。

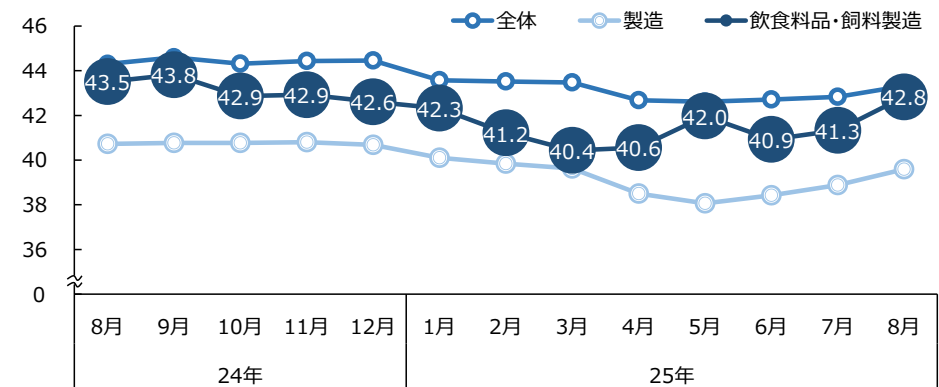
・『サービス』(48.2) …同 0.1 ポイント減。3 カ月ぶりに悪化。連日の猛暑から屋外レジャーの利用減少が景況感を下押しした「娯楽サービス」(同 1.8 ポイント減) は、2 カ月ぶりに落ち込んだ。「広告関連」(同 1.5 ポイント減) も、猛暑のため、屋外イベントが減っているといった声があがり 4 カ月ぶりに悪化した。また、「人材派遣・紹介」(同 1.6 ポイント減) は、派遣先の減産や人材確保の課題により再び下向いた。他方、夏休みで家族連れの利用が増えたなどの声が寄せられた「飲食店」(同 1.2 ポイント増) は、3 カ月連続で改善した。

業界別の景気 DI

	8月	9月	10月	11月	12月	25年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	前月比
農・林・水産	43.3	47.8	46.3	46.7	43.7	45.1	46.8	47.0	47.5	48.1	49.3	46.1	47.9	1.8
金融	48.1	47.3	48.0	46.9	47.2	47.0	47.0	47.8	46.2	46.0	47.7	46.2	46.5	0.3
建設	47.3	47.8	47.8	48.1	47.6	46.9	46.7	46.7	45.9	45.9	45.9	46.4	46.8	0.4
不動産	47.5	48.5	47.2	47.5	48.2	47.6	47.5	47.6	46.9	49.0	48.4	47.7	48.1	0.4
製造	40.7	40.8	40.8	40.8	40.7	40.1	39.8	39.6	38.5	38.1	38.4	38.9	39.6	0.7
卸売	41.3	41.4	41.2	41.3	41.5	40.3	40.6	40.7	39.8	39.7	39.6	39.5	40.0	0.5
小売	40.5	40.3	39.7	39.4	39.5	38.6	38.6	39.2	38.6	38.3	38.6	38.9	39.4	0.5
運輸・倉庫	45.0	45.4	44.7	45.9	45.7	42.9	42.5	43.3	41.9	42.8	42.3	42.9	43.9	1.0
サービス	49.8	50.4	49.8	49.9	50.2	49.2	49.0	48.7	48.4	48.2	48.3	48.3	48.2	▲ 0.1
その他	41.3	39.8	42.9	40.0	39.6	41.7	40.8	41.7	40.2	45.0	39.2	37.9	40.7	2.8
格差	9.3	10.1	10.1	10.5	10.7	10.6	10.4	9.5	9.9	10.9	10.9	9.4	8.8	

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

注目業種の景気 DI の推移



主な業種別の景気 DI ランキング

上位 10 業種	業種名	景気DI	下位 10 業種	業種名	景気DI
	情報サービス	51.8		出版・印刷	33.2
	旅館・ホテル	50.5		繊維・繊維製品・服飾品卸売	33.7
	専門サービス	50.3		繊維・繊維製品・服飾品製造	34.2
	リース・賃貸	49.7		鉄鋼・非鉄・鉱業製品卸売	34.5
	不動産	48.1		紙類・文具・書籍卸売	36.2
	農・林・水産	47.9		繊維・繊維製品・服飾品小売	36.7
	精密機械、医療機械・器具製造	47.0		再生資源卸売	37.0
	メンテナンス・整備・検査	47.0		建材・家具・窯業・土石製品卸売	37.6
	建設	46.8		鉄鋼・非鉄・鉱業	37.8
	飲食店	46.8		パルプ・紙・紙加工品製造	38.0

※回答社数が30社以上の業種を対象。業種別の詳細データは、7ページを参照

規模別: 11 カ月ぶりに全規模がそろって改善、「大企業」は 4 カ月連続で上昇

- ・「大企業」「中小企業」「小規模企業」が 2024 年 9 月以来 11 カ月ぶりにそろって改善。『製造』や『卸売』など 6 業界が全規模で上向いた。「大企業」は『製造』や『小売』がけん引し、4 カ月連続での改善となった。
- ・「大企業」(47.8) …前月比 0.5 ポイント増。4 カ月連続で改善。2 カ月連続で DI が 50 台を維持した「電気機械製造」など『製造』がリードしていた。「物価高騰から売り上げが増加」という声が聞かれた『小売』も改善した。
- ・「中小企業」(42.6) …同 0.6 ポイント増。2 カ月連続で改善。『卸売』は猛暑による飲料や製氷の好調が寄与した「飲食料品卸売」など 9 業種中 8 業種が上向いた。DI が 50 台に迫った「精密機械、医療機械・器具製造」を含む『製造』もけん引した。
- ・「小規模企業」(41.7) …同 0.8 ポイント増。2 カ月ぶりに改善。『農・林・水産』は、「養鶏」や「米作農」で商品相場が上昇したとの声が聞かれ大幅に上向いた。「繁忙期が続いている」などのコメントが寄せられた『建設』も全体を押し上げた。

規模別の景気 DI

	8月	9月	10月	11月	12月	25年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	前月比
大企業	48.2	48.5	48.3	48.3	48.7	48.1	48.2	47.9	46.7	46.8	47.1	47.3	47.8	0.5
中小企業	43.6	43.9	43.6	43.7	43.7	42.8	42.7	42.7	42.0	41.9	41.9	42.0	42.6	0.6
(うち小規模企業)	42.5	43.0	42.7	42.7	42.6	41.5	41.6	41.6	41.0	40.8	41.0	40.9	41.7	0.8
格差(大企業-中小企業)	4.6	4.6	4.7	4.6	5.0	5.3	5.5	5.2	4.7	4.9	5.2	5.3	5.2	

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

地域別の景気 DI

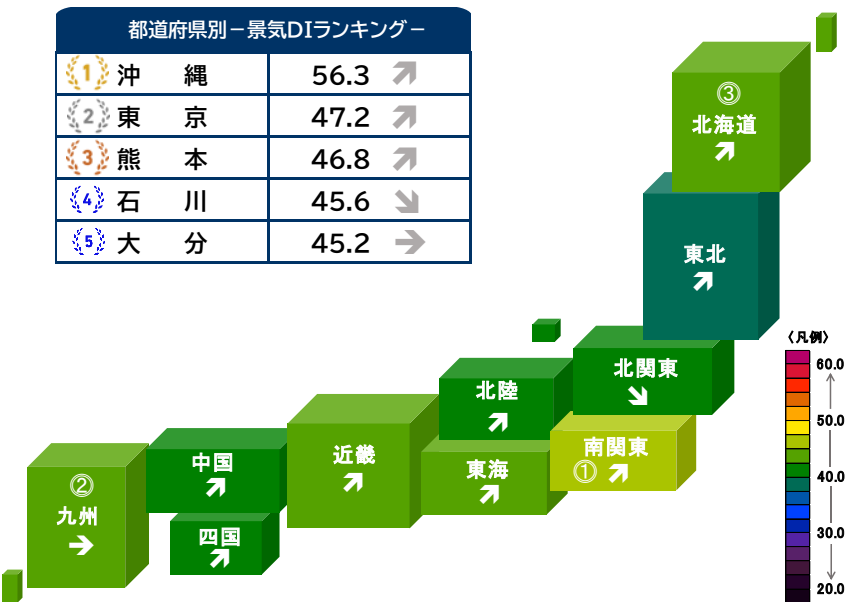
	8月	9月	10月	11月	12月	25年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	前月比
北海道	45.0	45.4	44.1	43.8	43.6	41.8	41.8	41.7	42.0	43.4	43.9	43.7	43.9	0.2
東北	39.7	40.7	40.2	40.6	40.1	38.9	38.6	38.3	37.9	38.2	39.1	39.2	39.5	0.3
北関東	42.1	42.3	42.4	42.4	41.9	41.1	41.4	40.7	40.5	39.3	40.1	41.3	41.0	▲ 0.3
南関東	46.6	46.7	46.5	46.4	46.8	46.0	46.0	46.2	45.5	45.3	45.5	45.7	45.9	0.2
北陸	41.8	42.6	42.2	42.2	41.7	40.5	41.0	40.6	40.2	40.4	40.0	40.9	41.0	0.1
東海	43.7	44.3	43.9	44.1	44.0	43.7	43.5	43.1	41.4	41.5	41.4	41.6	43.2	1.6
近畿	43.5	44.0	43.8	43.8	44.2	43.1	43.2	43.5	42.7	42.2	42.1	41.5	42.7	1.2
中国	43.9	44.0	43.6	44.5	44.1	43.0	42.6	42.9	41.4	41.4	40.9	41.3	42.1	0.8
四国	40.5	40.7	41.2	41.3	40.1	40.1	40.3	41.4	39.6	40.6	39.7	39.9	40.6	0.7
九州	47.3	46.9	46.4	47.2	47.6	46.4	46.3	45.7	44.8	44.8	44.5	44.4	44.4	0.0
格差	7.6	6.2	6.3	6.6	7.5	7.5	7.7	7.9	7.6	7.1	6.4	6.5	6.4	

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

地域別: 10 地域中 8 地域が改善、各地の建設需要などがプラス材料に

- ・『北海道』『近畿』など 10 地域中 8 地域が改善、『北関東』が悪化、『九州』が横ばい。都道府県別では 33 都道府県が改善、13 県が悪化。各地の建設需要などがプラス要因だった一方で、一部の自動車関連の低迷が押し下げ要因となった。
- ・『北海道』(43.9) …前月比 0.2 ポイント増。2 カ月ぶりに改善。10 業界中 5 業界が上向いた。米価や乳価の上昇などを背景に『農・林・水産』が大幅に改善した。「飲食料品・飼料製造」など『製造』も好調で、けん引役となった。
- ・『近畿』(42.7) …同 1.2 ポイント増。5 カ月ぶりに改善。域内 6 府県中 5 府県が上向いた。夏休み期間の大阪・関西万博による人流増加をあげる声が聞かれた。建築工事が好調だった『建設』は同 2.2 ポイント増加し、地域景気を後押しした。
- ・『北関東』(41.0) …同 0.3 ポイント減。3 カ月ぶりに悪化。域内 5 県中 3 県が下向いた。暑さにより人の動きが鈍かったことで大幅に悪化した『サービス』や、自動車関連の低迷による影響を受けた『製造』が全体を押し下げた。

地域別の景気 DI(2025 年 8 月)



業界別の景況感企業の声1(農・林・水産～製造)

業界名				現在	先行き
	6月	7月	8月		
農・林・水産	49.3 ➡	46.1 ➡	47.9 ➡	○ 米価が上昇している(米作農) ○ 鶏卵相場が高くなっている(養鶏) ○ 乳価が上がって余裕ができた(酪農) × 鮮魚の水揚げが低水準のままであり、漁業者の活気がない(他の漁業協同組合) × 資材価格など物価が高騰している(森林組合)	○ 貸別荘などの利用客や阪神間からの人出がまだ続く予想(野菜果樹作サービス) △ ニーズが変わらず、横ばいの状態が続く見込み(施設野菜作農) × 天候不順の影響が大きく、作物が十分に収穫できない可能性が高い(野菜作農) × 人手不足の影響が時間の経過とともに大きくなっていく(園芸サービス) × 気象や高い海水温の影響で、今後の漁獲量など見通しが立たない(定置網漁)
金融	47.7 ➡	46.2 ➡	46.5 ➡	○ 資金流入傾向が続いているなか、世界的な株高も好影響(証券投資信託委託) ○ キャッシュレス決済導入企業が増加している(他の補助的金融) ○ 貸出金利回りの改善がみられ利息収入が増加している(信用金庫・同連合会) × 業界の殆どが小規模事業者であり、コスト増や納税・社会保険の負担増に対応することが難しい(損害保険代理)	○ クライアントの1年程度先の見通しが立ち始めている様子がみえる(損害保険代理) △ 経済状況は回復傾向であるが、原材料や原油の高止まりが続いている上に米国関税政策の影響が懸念される(信用組合・同連合会) × TSMC第二工場の着工延期による不透明感が継続する見通し(その他の投資) × 良い材料が見当たらない(事業者向け貸金)
建設	45.9 ➡	46.4 ➡	46.8 ➡	○ 新幹線延伸工事や札幌市内の再開発事業が行われている(冷暖房設備工事) ○ 公共、民間問わず問い合わせや受注が微増してきている(土工・コンクリート工事) ○ 民間再開発物件の施工予定があり、仕事が確保されている(型枠大土工事) ○ 首都圏においては工事案件が多くあり、選別受注ができる状況。また、資機材価格も落ち着いてきている(一般土木建築工事) △ 工事着工案件が複数あるが、規模が大きく施工まで期間が空く(金属製建具工事) × 原材料費・労務費の高騰に対して価格転嫁できず、利益確保できない(内装工事) × 資材高騰による需要減少と人手不足による受注量の減少が起きている(鉄骨工事) × 日々入札を行っているが、ダンピング受注が多く発生している。特に大阪ではかなり厳しい状況とみられる(土木工事)	○ 大型案件の依頼が多く入り始めており、すべて成約となった場合、来年度の契約残は十分期待できる(木造建築工事) ○ 入替の必要な設備を抱える顧客が多く、今後の受注に期待(冷暖房設備工事) ○ 少なくとも今後1年間は、地元工事の活況が続く見通し(機械器具設置工事) △ 当面は設備投資が継続すると思われるが、関税・紛争などの不安定な海外情勢に設備投資控えが懸念される(電気通信工事) × 人材不足や材料費の高止まりなど、良い材料は見つからない(一般管工事) × 景気の先行きは不透明で、受注増も見込めない(建築工事) × 市場の景況感や節約志向の継続により、住宅取得意欲が低迷している。需要減少に歯止めがかけられない状況が続く見込み(木造建築工事)
不動産	48.4 ➡	47.7 ➡	48.1 ➡	○ 8月は長期のお盆休暇があり、集客が良かった(貸事務所) ○ 在庫の動きも悪くなく、新規の仕入れが難しいほど活況(土地売買) ○ 顧客である飲食業界の売上げが好調である(不動産管理) × 積極的に広告宣伝活動を実施しているが、想定反響数に達しない。また、販売価格の高騰にもかかわらず、低予算のお客さまが多い(不動産代理業・仲介) × 酷暑の影響により、7月下旬と比べてお客さまの動きが少なく感じる(建物売買)	○ 北海道の物流拠点が釧路、苫小牧の2拠点に集中する流れが明確になりつつある。この企業進出の勢いは当分止まらない見通し(貸家) ○ 賃料の上昇にユーザーがついてきており、今後も入居率は好調と予測(土地売買) × 住宅ローン金利が上昇し購入控えになる可能性がある(不動産代理業・仲介) × 消費税の動向が不透明となっており、消費者が住宅購入をするかどうかの判断ができない状況が続く見通し(不動産管理)
製造	38.4 ➡	38.9 ➡	39.6 ➡	○ 日本国内での生産増加に加え、新開発品の受注も増加(工業用樹脂製品製造) ○ コメの買取価格の上昇により、農家の農機具買い替えおよび部品交換などの需要が増加したため、メーカーからの受注量が増えた(機械刃物製造) ○ インバウンドをはじめとした宿泊施設・個人経営店の好調に加え、大手チェーン店の集客も安定している(ソース製造) △ ここ2、3カ月の受注高に変化がない(荷役運搬設備製造) × 公共土木工事の発注が少なく、生コンの出荷が減少している(生コンクリート製造) × 各種コストの高騰が止まらず、採算がとれない状況が継続(他楽器・同部品製造) × 気温が高すぎるため、屋外のスポーツ活動だけでなく、屋内のスポーツ活動の自粛がみられ、スポーツ用品の販売が減少している(運動用具製造)	○ 自動車関連プラスチック着色剤と電子機器梱包用導電性プラスチック着色剤の受注が増加しており、今後も堅調に推移する見込み(樹脂成形材料製造) ○ 半導体製造装置向け製品が年明け頃から動き出す見通し(工業用樹脂製品製造) ○ 円高が期待でき、燃料コストが下がることを想定している(石灰製造) ○ 取引先の大手自動車メーカーの好調が続く見通し(工業用樹脂製品加工) × トランプ関税の悪影響が顕在化すると考えている(工業用樹脂製品製造) × 各種コストの上昇に対し、価格転嫁できない状態が続く見込み(肉製品製造) × 素材が高騰しすぎてしまい、消費者の需要は戻ってこない見通し(貴金属製品製造) × 世界的に皮革離れや代替商品の台頭が起きており、今後さらに加速すると予測。また、原料の牛や豚の農家も減少しており、市場は冷え込む(他特殊産業機械製造)

【判断理由】○＝良いと判断した理由△＝どちらでもない理由×＝悪いと判断した理由

業界別の景況感企業の声2(卸売～サービス)

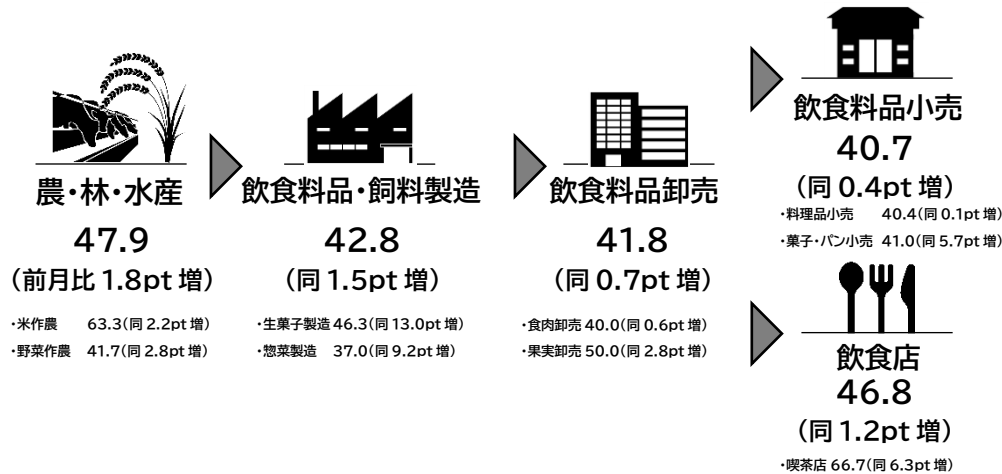
業界名				現在	先行き
	6月	7月	8月		
卸売	39.6 ▲	39.5 ▲	40.0 ▲	○ 農業関係の機械類とポンプ機械が売れている(特殊産業用機器卸売) ○ 蛍光灯の製造中止予告を受け、交換工事依頼が多い(産業用電気機器卸売) ○ 大阪関西万博、インバウンド、夏休みなどによる人流増加により、飲食や宿泊業態が好調(その他の食料飲料卸売) ○ 空調設備、PCなど情報機器の更新需要が伸びている(家庭用電気機器卸売) × 相場が高止まりしており、出荷量が落ちている(食肉卸売) × 物価高のなか、高額な住宅の購入者は非常に少ない(木材・竹材卸売) × 4月の薬価改定による販売価格低下の影響と新型コロナ関連需要が2024年より低調になっている(医薬品卸売)	○ 東京都の鉄道施設でホームドア設置に補助金が出ることから、ホーム床工事の増加が見込める(合成樹脂板・管等卸売) ○ 半導体関連の需要は2026年に向けて回復する見通し(産業用電気機器卸売) ○ 人件費の高騰に繋がる大企業からの値上げなどが見込まれ、今後の価格転嫁は前年・今年度よりもハードルは低いと感じる(生鮮魚介卸売) × リフォーム事業の新築需要は増加する見込みがない(板ガラス卸売) × 円安・人件費の上昇により、物価高騰の長期化が予想される(家具・建具卸売) × 主要販売先である大手小売店は好調だが、小売店のPB化や当社商材の寿命など諸問題が重なり、厳しい状況が続く(他の衣服身辺雑貨卸売)
小売	38.6 ▲	38.9 ▲	39.4 ▲	○ 暑い日が続き、エアコン販売が好調(家庭用電気機械器具小売) ○ インバウンドの大幅回復もあり、競合各社で前年比100%超えが多い(男子服小売) ○ 環境商材の引き合いが強い(家庭用機械器具小売) ○ マイカー顧客が増加している(その他各種商品小売) × 物価高に押され、原材料・人件費・エネルギーコスト上昇分を十分に価格転嫁できておらず、苦戦している企業が多い(各種食料品小売) × 呉服業界の低迷や物価高、ライフスタイルの変化、猛暑などにより消費意欲が低下している(呉服・服地小売) × 連日の猛暑の影響もあり、来店客が極端に減っている(婦人・子供服小売)	○ 一部商品で需要が供給を上回る状況であり、売手市場が続く(二輪自動車小売) ○ 秋冬の観光シーズンなどの影響により当面は好調の見通し(燃料小売) ○ 暫定税率の撤廃により、使用量が増える可能性がある(ガソリンスタンド) △ インバウンド需要は情勢・状況で変化が激しく、予測が困難(洋品雑貨小間物小売) × 主たるユーザーが年金受給者でもあるため、地域人口の減少と物価上昇が続く限り今後も需要は減り続ける(他の飲食料品小売) × 物価上昇に実質賃金の上昇が追い付いておらず、個人消費の冷え込みは依然続き、徐々に食品小売にも響く見通し(各種食料品小売) × 薬価改定、薬価差減、調剤報酬改定、人件費増など見通しは暗い(医薬品小売)
運輸・倉庫	42.3 ▲	42.9 ▲	43.9 ▲	○ 夏休みで観光需要が増えた(乗用旅客自動車運送) ○ 震災復興関連のツアーや万博のツアーが出てきている(特定旅客自動車運送) ○ 博多港取扱の外国貿易コンテナが輸出入ともに順調(集配利用運送) ○ 中国への製造装置輸出や自動車関連の輸出入が若干復調(沿海貨物海運) △ 売り上げは微増したが、コストがかなり高騰しており増益はない(港湾運送) × 自動車産業の集積地では、トランプ関税の影響で減産状態が継続(普通倉庫) × 猛暑続きで売り上げが良くない。また、自然災害の影響も大きい(旅行代理店) × 国内消費や中国の景気低迷の長期化などにより、輸出入における荷動きの悪い状態が続いている(運送取次)	○ 冷凍倉庫の需要が増加傾向にある(冷蔵倉庫) ○ 暫定税率が廃止されれば軽油価格が従来よりも抑えられ、仮に売り上げ・その他経費が横ばいであっても収益的には改善が見込まれる(一般貨物自動車運送) ○ インバウンド・行楽シーズンで、人出が多くなる見通し(乗用旅客自動車運送) △ 景気の上昇機運は感じないが、極端な悪化気配も感じない(一般貨物自動車運送) × トランプ関税の対策として、売価の値上げや生産効率のアップと言われるが、どちらも困難な状況が続く(普通倉庫) × アメリカや中国向けの輸出量が以前と同水準まで戻るか不透明(組立こん包) × 価格転嫁が思うように進まない状況が続く見通し(港湾運送)
サービス	48.3 ▲	48.3 ➡	48.2 ▲	○ 国体開催のためのインフラ整備・公共事業が増えている(土木建築サービス) ○ 繁忙期のお盆が天候に恵まれ、売り上げは2024年を上回っている(そば・うどん店) ○ 設備更新への投資計画向上に加え、再生フロンに関する取組の認知度向上がプラスに働いている(特別管理廃棄物運搬) × 輸出関連の会社が多く、トランプ関税の問題が影響している(ビルメンテナンス) × 労務費の価格転嫁ができない状況が続いている(警備) × 猛暑のため、時期をずらすなど屋外イベントは減っている(ディスプレイ) × 熱中症アラートの発令など、猛暑の影響で出控え傾向が強顧客が伸びない。旧盆の帰省などもこれまでと変化があり人出がない(その他の宿泊所)	○ マイナス要因の情報は少なく、現況の流れが緩やかに継続していく(総合リース) ○ 猛暑が落ち着く10月あたりから増加してくる見通し(その他の娯楽) ○ 公共事業の発注率が向上するとともに、民間事業の見積依頼も増加しており、今年度同様の売り上げが見込める状況(土木建築サービス) × 天候不順などの自社では解決困難な事態が続くと考えられる(旅館) × 不安定な気候の影響に加え、仕入れ値の上昇が続く見通し(酒場、ビヤホール) × 最低賃金の改定に対応すべく、給与引き上げを行うが、価格転嫁が受け入れられるのか不明で会社の収益に悪影響がでるかもしれない(ソフト受託開発) × 仕入れ価格の高騰が続くばかりで、下落の見通しが立たない(電気事業所)

【判断理由】○＝良いと判断した理由△＝どちらでもない理由×＝悪いと判断した理由

【今月のトピックス】 飲食関連の景況感に関する動向

- 飲食関連の景況感は、お盆休み期間の賑わいや季節需要などから川上から川下まで幅広い業種で改善した
- 東京都の猛暑が家計消費支出に与える影響、『食料』は「外食」や「飲料」ほかアイスなどの「菓子類」が伸び、約 192 億円増加と推計

飲食関連の景気 DI（商流）



2025 年夏の家計消費支出・食料品目の抜粋（東京都）

支出項目	支出増減額(百万円)			備考
		7月	8月	
食料	19,228	3,064	16,163	
魚介類	▲5,218	▲2,336	▲2,882	生鮮魚介など
野菜・海藻	▲518	▲244	▲275	大豆加工品、乾物・海藻など
果物	1,844	803	1,041	生鮮果物など
菓子類	5,108	2,387	2,721	アイスクリーム・シャーベットなど
調理食品	2,342	0	2,342	弁当など
飲料	7,115	2,454	4,661	茶類、炭酸飲料、発泡酒、ビールなど
外食	8,555	0	8,555	喫茶代など

※帝国データバンク「東京都の猛暑が家計支出に与える影響調査（2025 年）」（2025 年 8 月 25 日発表）

飲食需要に関する企業からのコメント

コメント（抜粋）	業種
・米価の上昇により 売上高が増加	農・林・水産（米作農）
・全国的に生産量が不足し 鶏卵相場が高騰 している	農・林・水産（養鶏）
・個人経営店の好調に加え、大手チェーン店の集客も良い。 外食市場は安定 している	飲食料品・飼料製造（ソース製造）
・当社は受注が増え 景気回復の兆し がみえてきた	飲食料品・飼料製造（米菓製造）
・ 製氷販売 部門は猛暑の影響で 好調	飲食料品卸売（その他の食料・飲料卸売）
・ お盆休み期間の賑わい が継続している	飲食料品小売（各種食料品小売）
・ ブランド牛の人気 が急速に向上していると感じる	飲食料品小売（食肉小売）
・気温が上がっているうちは 売り上げが増加	飲食店（喫茶店）
・夏休みの影響で 家族連れの利用が増加	飲食店（料亭）
・この 8 月より地元で再開発事業が着工しているため、 工事関係者の利用が拡大	飲食店（酒場・ビヤホール）

【APPENDIX】 10 業界 51 業種

		8月	9月	10月	11月	12月	25年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	前月比
農・林・水産		43.3	47.8	46.3	46.7	43.7	45.1	46.8	47.0	47.5	48.1	49.3	46.1	47.9	1.8
金融		48.1	47.3	48.0	46.9	47.2	47.0	47.0	47.8	46.2	46.0	47.7	46.2	46.5	0.3
建設		47.3	47.8	47.8	48.1	47.6	46.9	46.7	46.7	45.9	45.9	45.9	46.4	46.8	0.4
不動産		47.5	48.5	47.2	47.5	48.2	47.6	47.5	47.6	46.9	49.0	48.4	47.7	48.1	0.4
製造	飲食品・飼料製造	43.5	43.8	42.9	42.9	42.6	42.3	41.2	40.4	40.6	42.0	40.9	41.3	42.8	1.5
	繊維・繊維製品・服飾品製造	36.5	36.3	35.7	36.7	36.3	35.1	38.1	36.8	35.2	34.1	32.9	33.6	34.2	0.6
	建材・家具・窯業・土石製品製造	39.5	39.5	38.9	39.2	40.8	38.8	40.1	38.4	38.6	36.8	39.3	40.0	39.0	▲ 1.0
	パルプ・紙・紙加工品製造	36.7	37.3	37.8	36.5	38.8	35.8	36.8	37.9	38.1	34.9	35.3	35.6	38.0	2.4
	出版・印刷	34.4	34.5	33.2	34.2	33.6	33.5	33.9	32.9	33.3	32.9	32.0	32.6	33.2	0.6
	化学品製造	42.6	43.6	43.9	43.4	42.5	42.5	42.8	41.6	42.4	41.5	41.4	42.4	43.3	0.9
	鉄鋼・非鉄・鋳業	39.0	39.2	39.0	39.7	38.5	38.0	36.5	38.1	35.1	35.3	35.7	36.6	37.8	1.2
	機械製造	41.9	41.2	42.3	41.9	41.3	40.9	40.1	39.1	37.5	37.8	38.4	37.5	38.5	1.0
	電気機械製造	42.5	42.9	44.1	42.8	43.5	43.0	43.1	43.4	40.9	39.9	41.6	42.8	42.0	▲ 0.8
	輸送用機械・器具製造	43.5	41.0	42.1	41.3	41.7	43.3	39.9	42.9	38.2	36.5	39.9	40.7	39.1	▲ 1.6
	精密機械・医療機械・器具製造	43.9	44.0	43.8	46.4	48.4	47.3	46.3	46.9	45.3	44.1	44.3	44.1	47.0	2.9
	その他製造	42.3	41.7	38.2	38.9	40.1	39.2	41.4	41.0	41.4	40.5	37.2	38.9	40.1	1.2
	全 体	40.7	40.8	40.8	40.8	40.7	40.1	39.8	39.6	38.5	38.1	38.4	38.9	39.6	0.7
卸売	飲食品卸売	43.8	44.1	43.2	42.4	44.0	41.8	42.2	41.3	41.3	41.2	40.3	41.1	41.8	0.7
	繊維・繊維製品・服飾品卸売	36.5	34.2	34.5	33.7	34.4	34.5	33.8	34.6	35.8	35.1	34.8	34.8	33.7	▲ 1.1
	建材・家具・窯業・土石製品卸売	38.2	37.5	38.6	39.2	38.9	39.3	38.0	38.9	38.2	39.0	38.2	37.4	37.6	0.2
	紙類・文具・書籍卸売	37.2	37.8	37.8	39.4	37.3	35.4	39.8	40.0	37.8	36.8	36.6	35.3	36.2	0.9
	化学品卸売	44.5	44.3	43.0	43.5	44.2	43.3	43.2	42.9	41.2	41.2	41.8	41.7	42.0	0.3
	再生资源卸売	40.5	36.8	38.9	38.5	40.3	36.5	42.1	36.2	35.8	35.1	36.6	36.0	37.0	1.0
	鉄鋼・非鉄・鋳業製品卸売	34.7	36.1	36.3	36.4	34.7	34.0	33.7	33.3	32.8	32.4	33.0	33.7	34.5	0.8
	機械・器具卸売	44.0	44.5	44.0	43.9	44.5	43.2	43.6	43.7	42.3	42.2	42.6	42.3	43.1	0.8
	その他の卸売	41.8	41.5	41.7	42.1	42.3	40.7	41.1	41.5	40.8	40.7	40.1	40.2	40.5	0.3
	全 体	41.3	41.4	41.2	41.3	41.5	40.3	40.6	40.7	39.8	39.7	39.6	39.5	40.0	0.5

		8月	9月	10月	11月	12月	25年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	前月比
小売	飲食品小売	44.0	43.3	40.0	40.6	39.7	38.5	38.6	39.6	41.8	41.1	40.8	40.3	40.7	0.4
	繊維・繊維製品・服飾品小売	37.2	36.9	34.5	39.1	40.0	38.1	35.4	34.8	35.0	39.0	35.4	36.4	36.7	0.3
	医薬品・日用雑貨品小売	40.3	41.0	40.4	42.5	41.5	42.0	39.1	40.6	35.4	35.9	36.1	39.7	41.1	1.4
	家具類小売	30.7	31.3	33.3	34.7	36.4	31.3	34.5	28.2	36.3	33.9	31.8	32.0	35.2	3.2
	家電・情報機器小売	46.1	45.3	43.8	38.8	42.6	43.0	42.3	42.3	41.4	39.6	43.0	42.3	42.4	0.1
	自動車・同部品小売	39.0	38.9	42.3	39.3	39.5	39.6	38.9	42.9	40.5	38.2	40.8	38.0	40.1	2.1
	専門商品小売	40.0	39.9	38.8	38.0	38.1	37.3	38.5	38.2	37.5	37.5	37.4	38.6	38.3	▲ 0.3
	各種商品小売	43.9	41.3	39.6	42.4	39.6	38.8	39.5	39.5	36.0	35.8	36.3	38.5	38.5	0.0
	その他の小売	37.8	44.0	39.3	45.6	44.4	37.5	41.2	39.3	43.3	45.2	44.8	46.9	49.0	2.1
全 体		40.5	40.3	39.7	39.4	39.5	38.6	38.6	39.2	38.6	38.3	38.6	38.9	39.4	0.5
運輸・倉庫		45.0	45.4	44.7	45.9	45.7	42.9	42.5	43.3	41.9	42.8	42.3	42.9	43.9	1.0
サービス	飲食店	52.5	49.3	46.2	47.5	49.5	45.5	43.6	45.1	46.2	43.5	44.6	45.6	46.8	1.2
	電気通信	50.0	40.7	57.4	53.0	57.6	50.0	48.6	53.3	48.7	50.0	47.4	51.9	47.9	▲ 4.0
	電気・ガス・水道・熱供給	37.5	38.9	44.4	45.8	39.7	45.0	44.4	41.0	47.1	44.4	43.3	46.1	48.3	2.2
	リース・賃貸	50.2	48.4	49.7	49.5	51.0	51.1	49.8	52.2	48.7	49.8	48.0	49.3	49.7	0.4
	旅館・ホテル	53.4	55.3	56.9	60.0	56.9	55.4	52.8	53.9	54.8	52.4	51.7	49.6	50.5	0.9
	娯楽サービス	43.2	48.4	47.9	45.8	45.6	46.2	46.5	44.0	45.4	47.6	45.2	46.8	45.0	▲ 1.8
	放送	42.2	46.8	46.2	51.6	53.0	47.5	49.0	50.8	49.2	48.4	49.2	50.8	47.6	▲ 3.2
	メンテナンス・警備・検査	48.2	48.1	47.9	48.9	48.3	46.3	49.0	46.6	46.5	46.6	47.0	48.5	47.0	▲ 1.5
	広告関連	43.6	45.8	46.2	46.2	48.3	45.5	46.0	45.7	45.5	46.1	47.2	47.2	45.7	▲ 1.5
	情報サービス	53.9	55.1	53.7	54.0	53.8	54.0	53.7	52.7	52.7	52.1	52.5	51.7	51.8	0.1
	人材派遣・紹介	49.2	50.2	49.3	48.4	50.0	50.8	47.2	47.1	48.5	48.2	47.9	48.3	46.7	▲ 1.6
	専門サービス	50.6	51.3	50.9	50.0	50.0	49.8	49.5	49.6	49.0	49.7	49.2	49.0	50.3	1.3
	医療・福祉・保健衛生	44.2	44.6	44.2	41.9	43.6	42.4	41.9	42.5	42.0	41.4	40.4	38.0	39.5	1.5
	教育サービス	47.7	48.7	46.9	47.0	49.0	46.0	43.9	46.8	42.2	44.9	43.4	40.6	39.9	▲ 0.7
	その他サービス	48.6	47.9	47.2	47.7	48.3	46.6	47.1	46.8	46.4	45.5	47.3	47.3	46.5	▲ 0.8
全 体		49.8	50.4	49.8	49.9	50.2	49.2	49.0	48.7	48.4	48.2	48.3	48.3	48.2	▲ 0.1
その他		41.3	39.8	42.9	40.0	39.6	41.7	40.8	41.7	40.2	45.0	39.2	37.9	40.7	2.8

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

調査先企業の属性

1. 調査対象(2万6,162社、有効回答企業1万701社、回答率40.9%)

(1) 地域

北海道	477	東海(岐阜 静岡 愛知 三重)	1,184
東北(青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島)	780	近畿(滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山)	1,706
北関東(茨城 栃木 群馬 山梨 長野)	854	中国(鳥取 島根 岡山 広島 山口)	715
南関東(埼玉 千葉 東京 神奈川)	3,193	四国(徳島 香川 愛媛 高知)	365
北陸(新潟 富山 石川 福井)	541	九州(福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄)	886
合 計			10,701

(2) 業界(10業界51業種)

農・林・水産	111	小売	飲食品小売業	141
金融	171		繊維・繊維製品・服飾品小売業	79
建設	1,627		医薬品・日用雑貨品小売業	62
不動産	461		家具類小売業	27
			家電・情報機器小売業	59
製造	飲食品・飼料製造業	(841)	自動車・同部品小売業	121
	繊維・繊維製品・服飾品製造業		専門商品小売業	274
	建材・家具・窯業・土石製品製造業		各種商品小売業	61
	パルプ・紙・紙加工品製造業		その他の小売業	17
	出版・印刷			
(2,473)	化学品製造業	運輸・倉庫		442
	鉄鋼・非鉄・鉱業		飲食店	124
	機械製造業		電気通信業	8
	電気機械製造業		電気・ガス・水道・熱供給業	20
	輸送用機械・器具製造業		リース・貸貸業	98
(2,271)	精密機械・医療機械・器具製造業	サービス	旅館・ホテル	98
	その他製造業		娯楽サービス	97
	飲食品卸売業		放送業	21
	繊維・繊維製品・服飾品卸売業		メンテナンス・整備・検査業	287
	建材・家具・窯業・土石製品卸売業		広告関連業	109
(2,268)	紙類・文具・書籍卸売業	(2,268)	情報サービス業	488
	化学品卸売業		人材派遣・紹介業	82
	再生資源卸売業		専門サービス業	414
	鉄鋼・非鉄・鉱業製品卸売業		医療・福祉・保健衛生業	113
	機械・器具卸売業		教育サービス業	46
	その他の卸売業	その他	その他サービス業	263
合 計				10,701

(3) 規模

大企業	1,581	14.8%
中小企業	9,120	85.2%
(うち小規模企業)	(3,590)	(33.5%)
合 計	10,701	100.0%
(うち上場企業)	(198)	(1.9%)

2. 調査事項

- ・景況感(現在)および先行きに対する見通し
- ・経営状況(売り上げ、生産・出荷量、仕入れ単価・販売単価、在庫、設備稼働率、従業員数、時間外労働時間、雇用過不足、設備投資意欲)および金融機関の融資姿勢

3. 調査時期・方法

2025年8月18日～8月31日(インターネット調査)

景気動向指数(景気 DI)について

■TDB 景気動向調査の目的および調査項目

全国企業の景気判断を総合した指標。国内景気の実態把握を目的として、2002年5月から調査を開始。景気判断や企業収益、設備投資意欲、雇用環境など企業活動全般に関する項目について全国約2万6千社を対象に実施している月次統計調査(ビジネス・サーベイ)である。

■調査先企業の選定

全国全業種、全規模を対象とし、調査協力の承諾が得られた企業を調査先としている。

■DI 算出方法

DI(ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index))は、企業による7段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各選択区分の回答数に乗じて算出している。

選択区分	非常に良い	良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	悪い	非常に悪い
点数	6	5	4	3	2	1	0
各区分の回答数	N ₆	N ₅	N ₄	N ₃	N ₂	N ₁	N ₀

$$\text{景気 DI} = \frac{(\text{各区分点数} \times \text{各区分回答数}) \text{の合計}}{\text{有効回答数 } N} \times \frac{1}{6} \times 100 = \frac{\sum_{i=0}^6 i \times N_i}{N} \times \frac{1}{6} \times 100$$

景気 DI は、50 より上であれば「良い」、下であれば「悪い」を意味し、**50 が判断の分かれ目**となる。また、企業規模によるウェイト付けは行っておらず、「1社1票」である。

■企業規模区分

企業の多様性が増すなか、資本金や従業員数だけでは計りきれない実態の把握を目的に中小企業基本法に準拠し、全国売上高ランキングデータを加え下記の通り区分。

業界	大企業	中小企業(小規模企業を含む)	小規模企業
製造業その他の業界	「資本金3億円を超える」かつ「従業員数300人を超える」	「資本金3億円以下」または「従業員数300人以下」	「従業員数20人以下」
卸売業	「資本金1億円を超える」かつ「従業員数100人を超える」	「資本金1億円以下」または「従業員数100人以下」	「従業員数5人以下」
小売業	「資本金5千万円を超える」かつ「従業員数50人を超える」	「資本金5千万円以下」または「従業員数50人以下」	「従業員数5人以下」
サービス業	「資本金5千万円を超える」かつ「従業員数100人を超える」	「資本金5千万円以下」または「従業員数100人以下」	「従業員数5人以下」

注1: 中小企業基本法で小規模企業を除く中小企業に分類される企業のなかで、業種別の全国売上高ランキングが上位3%の企業を大企業として区分

注2: 中小企業基本法で中小企業に分類されない企業のなかで、業種別の全国売上高ランキングが下位50%の企業を中小企業として区分

注3: 上記の業種別の全国売上高ランキングは、TDB産業分類(1,359業種)によるランキング

■景気予測 DI

景気 DI の先行きを予測する指標。ARIMA モデルと、経済統計や TDB 景気動向調査の「売り上げ DI」、「設備投資意欲 DI」、「先行き見通し DI」などを加えた構造方程式モデルの結果を Forecast Combination の手法により景気予測 DI を算出している。

【問い合わせ先】株式会社帝国データバンク 情報統括部

担当：窪田、池田、石井、中村 Tel：03-5919-9343 e-mail：keiki@mail.tdb.co.jp

©TEIKOKU DATABANK, LTD. 2025

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。